

事業所名

生きる力を育てる児童デイ びんど

支援プログラム（参考様式）

作成日

8年

4月

1日

法人（事業所）理念		笑顔をはぐくみ笑顔をつなぐ			
支援方針		日々の「できた！」という成功体験を積み重ねることで自信と自立へとつなげ、子どもたちの「生きる力」を育む。 また、一人ひとりの児童に応じた「オーダーメイド療育」を行うことによってご利用者様のご要望にお応えする。			
営業時間		第一単位(平日) 12時00分から 18時00分まで 第二単位(土祝) 9時00分から 15時00分まで	送迎実施の有無		あり なし
支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	全身の清潔保持や日々の健康状態の観察を丁寧に行い、安心して生活できる環境づくりに努める。 また、衣服の着脱練習を通して身辺自立を促し、気温や季節を考慮し適切な衣類を自ら選択できるよう支援を行うことで、生活に必要な判断力や自己管理能力の向上を目指す。 繰り返し経験や成功体験を積み重ねることで、将来的に自分自身で健康や生活を管理し、主体的に行動できる力を育んでいく。			
	運動・感覚	ストレッチや体操を日々のルーティン活動に取り入れ、継続して身体を動かすことで、筋力や柔軟性などの基礎体力の向上を図る。 また、バランスストーン・ラダー・トランポリンなどの器具を用いた活動を通して、平衡感覚や俊敏性、身体の運動性を養う。 揺れを使った運動を取り入れ、身体の使い方や姿勢保持を学びながら、楽しんで運動に取り組めるよう支援を行う。 一人ひとりの発達段階や特性に応じた支援を行い、無理なく身体機能の向上につなげていく。			
	認知・行動	スケジュールや視覚支援を活用し、状況理解を促すことで、見通しを持って安心して行動できるよう支援を行う。 また、自分の気持ちや状況を整理し、行動を振り返る機会を設けることで、場面に応じた適切な行動を選択できる力を育んでいく			
	言語 コミュニケーション	遊びやSST、レクリエーションを通して、自分の気持ちや相手の気持ちを理解し、場面に応じた言葉の使い方を学べるよう支援を行う。 また、発語が難しい児童に対しては、絵カード・マカトン法・ジェスチャーなどを活用し、自分の気持ちや意思を伝える手段を増やせるよう支援する。 さらに、ロールプレイを取り入れ、一つの事柄について話し合う機会を設けることで、自己理解や他者理解を深め、円滑なコミュニケーションにつなげていく。			
	人間関係 社会性	事業所スタッフとの関わりを通して人間関係を構築し、継続的な支援の中で信頼関係を深めることで、安心して過ごせる環境づくりを行う。また、他の利用者との交流を通じて、同世代だけでなく幅広い年齢層との関わりを経験し、他者の存在や関係性を学ぶ機会を得る。 集団活動を通して協力しながら一つのことを成し遂げる達成感を味わい、同じ体験を共有することで一体感や協調性を育む。 個々の発達段階に応じた支援を行い、一人ひとりの成長と発達を促していく。			
家族支援		送迎毎に保護者様へ療育の様子や情報の共有。半年に一度の面談で支援や療育のニーズの聴き取り、個別支援計画への反映、情報共有を密に行う事を行っている。困りごとや相談にすぐ対応できるようスタッフを配置、連絡できる体制を作っている。	移行支援		当グループはトータルサポートが可能なため、就職や作業所への移行を支援。定期的に体験会を開催し、作業や事業所の雰囲気を知ってもらう事が出来る。 また保護者にご観覧いただける行事の際には相談ブースを設置し、進路に対する相談や移行の提案などを行っている。
地域支援・地域連携		他の通所支援事業所や作業所との交流、情報交換や共有を行う。学校との情報交換や共有を行い、必要に応じて担当者会議を開催し、適切な統一した療育を行えるように関係機関と連携をとる。	職員の質の向上		理念、安全、虐待、災害など定期的に内部研修を開催してスタッフのスキル向上を目指し、必要な知識を習得しています。また外部研修で強度行動障がい、サビ管などの資格研修に積極的に参加している。グループ内で専門知識の理解度チェックを年2回実施している。
主な行事等		運動支援、学習支援、SST、外出行事、パラスポーツ大会 サッカー大会 白ゆり祭り 調理実習 作業所体験 遠足 事業所参観 季節に合わせた行事（お花見、夏祭り 水遊び クリスマス会など）			